

「事例で学ぶ教育・特別支援のエビデンスベイスト・プラクティス」

高士 真奈^{1), 2)}

1) リハビリテーション・エンジニアリング 編集委員会

2) 桜美林大学大学院 国際学術研究科 心理学実践研究学位プログラム

公認心理師必携！
事例で学ぶ
教育・特別支援の
エビデンスベイスト・
プラクティス

一般社団法人公認心理師の会
教育・特別支援部会 監修
金剛出版
2024年



ぎす理念です。この考え方は、心理支援職だけではなく、すべての対人援助職職種に共通して求められるものではないでしょうか。

本書の第三部「事例で学ぶ公認心理師の必須技能」では、各ページに仮想事例が紹介されています。そして、事例に対する、公認心理師の視点が詳細に解説されています。仮想事例に対して、どのような視点でアセスメントを行い、進めていくのか、また振り返り、評価、改善のプロセスが示されており、臨床現場において実践を体系的に整理するための参考になります。

対人援助職では、PDCA サイクルを活用した実践の振り返りが重要であるのにもかかわらず、臨床実践を客観的に説明する機会は多くありません。本書は、エビデンスベイストの視点から、臨床実践をどのように整理し、振り返り、改善するかヒントを提供してくれます。公認心理師だけではなく、医療、福祉、教育の分野で働く方々にとっても、実践に役に立つ一冊となると考えます。

臨床や支援現場でより良い実践を目指す方に、ぜひ手に取っていただきたい一冊です。

今回紹介する書籍は、一般社団法人公認心理師の会（以下、公認心理師の会）教育・特別支援部会が監修した「事例で学ぶ教育・特別支援のエビデンスベイスト・プラクティス」です。本書は、教育現場で活躍する公認心理師に求められる知識や技能について、仮想事例を用いながら解説した内容となっています。

一見すると、教育現場の心理支援職に向けた内容のように思えますが、実際には対人援助職全般に役に立つ視点が、多く盛り込まれています。臨床実践に必要な考え方やスキルを学ぶうえで非常に有益な一冊です。

本書は、公認心理師の会が掲げる「科学者－実践家モデル (Scientist-Practitioner model)」に基づいております。このモデルは、科学者としての客観的知識や研究能力と、実践家としての実務能力や人間性の両方を兼ね備えた高度専門職業人をめ

1) リハビリテーション・エンジニアリング 編集委員会

2) 桜美林大学大学院 国際学術研究科

E-mail: 224j2007@s.obirin.ac.jp